

令和8年度 評価計画及び自己評価

(計画)・中間・最終

両城中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

a 学校教育目標	① 心豊かに 自立する	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 集団の中で確かな学力を身に付けさせ社会性を育成する <ビジョン>(将来の学校像) 「学ぶなら、通わせるなら、働くなら、港町小学校で」と考える学校を目指す
----------	-------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置き、中学校区の「二川授業スタイル」に基づく授業改善に取り組んできた。その結果、緩やかながらも学力の向上が見られる。しかし、自分の考えを文章や言葉で表現する力の面で、なお課題が残っている。 また、自他を大切にし、共に成長し合う児童の育成を目指して、児童主体の異学年活動を推進してきた。この活動により、自己肯定感を高めるとともに、互いの長所を認め合う機会を継続的に設けている。 今後も、自他を尊重する安全安心な学級風土づくりを進めるとともに、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置きながら、さらなる教育の充実に努める。
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性
-------------	--------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)	自己評価
------------------------------	------

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力の向上	① 学力の向上	基礎・基本の徹底	・特別支援教育の視点を取り入れ、児童一人一人が「分かる・できる」授業づくりを行う。 ・帯タイムに設定したスキルタイムを活用し、基礎・基本的な読解力や計算力の定着を図る。	国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均点	85%						
		思考力・判断力・表現力の向上	・二川授業スタイルを基にしたノートに自分の考えをしっかりと書かせ他者と共有し、考えを深めさせる。	国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均点	80%						
** 豊かな心の育成	① 自尊感情の向上	自他を大切にし認め合う児童の育成【いじめの防止】	・異学年活動を充実させることで、他者思いやる態度の育成を図る。 ・児童アンケートを活用し、教育相談体制を充実させることで、問題の未然防止や早期解決に努める。	「学校に行くのは楽しいですか。」児童アンケート	85%						
		主体的に行動できる児童の育成	・児童中心で、いじめ撲滅に向けた活動を考え、実施させることで、いじめを許さない意識の育成を図る。 ・いじめについて直接考え、議論できる道徳の授業の充実を図る。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」児童アンケート	100%						
* 健やかな体の育成	① 生きる力の向上	体力の向上	・児童が主体的に楽しく体育授業に取り組むことができるように授業改善を行う。 ・仲間と豊かに関わり合いながら、運動の楽しさを味わわせることができる学習活動を設定する。	「運動やスポーツをすることは好きですか。」児童アンケート	80%						
		「自分の命は自分で守る」力の育成	・規則正しい生活習慣の定着を図るため、保護者への啓発を行いながら、学期に1回生活リズムばっちり週間を実施する。 ・呉市防災教育のための手引きを参考に、各学級年に1回、防災に関する授業を実施する。 ・災害リスクごとの避難訓練において、児童の発達段階に応じた、事前事後指導を徹底する。 ・「土砂災害対応携帯マニュアル」「地震津波災害対応携帯マニュアル」を活用し、家庭や地域と連携した防災教育の充実を図る。	早寝・早起き・朝ご飯・排便の項目 自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合 児童アンケート	70%						

業務改善	・教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	働きやすさ	・教職員同士の信頼関係を高めるとともに、教職員の声を踏まえながら、業務量の精選やチーム力の向上を図る。 ・勤務時間の管理や業務量など、勤務実態を適正に把握し、見える化することで長時間勤務の削減を図る。	心理的安全性が確保されていると感じている教職員の割合	90%						
		長時間勤務の削減		在校時間外勤務が45時間未満の教職員の割合	100%						

【k:評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60